

都内避難者の皆様への

# 定期便

2018  
1月号  
NO.144

都内に避難されている皆様へ、  
東京都からのお知らせ等の情報を送ります。

## 都内の応援団より (P1~2)

都内に避難されている皆様の応援団をご紹介します。今月は「広域避難者支援連絡会 in東京」の紹介と10月1日に実施された「ふれあいフェスティバル」の開催報告です。

## ふるさと復興の今がわかるツアー実施状況 【宮城県北部コース】 (P5)

平成29年10月24日~25日に実施した、ふるさと復興の今がわかるツアー実施状況【宮城県北部コース】についてお伝えします。

## 東京しごとセンター (P7~8)

東京都が実施する就労相談などのご案内です。

## 「都内避難者相談拠点」のご案内 (P10)

東京都が実施する都内に避難されている方向けの総合相談窓口のご案内です。

## ふるさとからのお知らせ (P3~4)

ふるさとの今をお知らせします。今月は岩手県からです。

## 現地の応援団より (P6)

東北で働く応援団をご紹介します。今月は、福島県に派遣されている東京都職員からです。

## 司法書士による面談・電話相談の ご案内 (P9)

東京司法書士会が実施する法律相談のご案内です。

次号の発送は、  
平成30年2月1日を  
予定しています。

# 都内の応援団より

都内に避難されているみなさまの応援団をご紹介します。

今月は広域避難者支援連絡会 in 東京です。

## ◆避難者と支援者による2017ふれあいフェスティバル

2017年10月1日(日)、都立篠崎公園で「避難者と支援者による2017ふれあいフェスティバル」が開催されました。これは、2015年から実施しているもので今回で3回目の開催。東京だけでなく埼玉や神奈川の避難者グループと支援団体と、広域避難者支援連絡会in東京と一緒に実行委員会を作り、企画・運営を行いました。

今回も快晴のうちに実施でき、避難者236人を含む554名の参加がありました。「久しぶりに会えたね」「元気にした？」といった声が飛び交い、避難者同士で避難生活を励ましあい、支え合う姿が見られました。

また、今回は避難者を応援したい団体からも多くの参加がありました。支援団体はそれぞれの特技を活かして、食事提供や足湯やハンドマッサージ、こども向けブース、避難者相談ブースなどを設け、支援活動を行いました。



※フェスティバルは、タケダ・赤い羽根 広域避難者支援プログラム、東京都共同募金会、真如苑「Shinjoプロジェクト」の助成金、また、中央ろうきん社会貢献基金、全労済、金光教首都圏災害ボランティア支援機構、東京労働者福祉協議会等の支援金を受け実施しました。

## ◆避難者グループとの関わり

広域避難者支援連絡会in東京（連絡会in東京）では、都内外にある12の避難者グループと交流をしながら、ふれあいフェスティバルを含め、さまざまな企画に取り組んでいます。また、避難者グループが他のグループに参加し、広域で交流できる場づくりも行っています。



## 連絡会と関わりのある 避難者グループ

No.	団体名
1	青空会
2	足立区新田ふるさと会
3	コスモス会
4	鷲宮都営住宅自治会
5	東雲の会
6	東北の絆・サロンFMI会
7	NPO法人とみおか子ども未来ネットワーク
8	町屋六丁目ミニサロン
9	みちのく・まほろば会
10	むさしのスマイル
11	双葉町埼玉自治会
12	かながわ東北ふるさと・つなぐ会

## ◆避難者支援団体のサポートや市民への啓発活動

連絡会in東京では、支援者同士で情報交換・意見交換を行う場として、「広域避難者支援ミーティングin東京」を平成25年から14回、実施しています。支援のアイデアや工夫などを話あっています。

また、一般市民を対象に東日本大震災の広域避難のことや広域避難者の存在を知ってもらうため、シンポジウムなどを実施し、風化防止や避難者支援の輪を広げる取組を行っています。



## 広域避難者支援連絡会 in 東京

連絡会in東京は、避難者支援団体・避難者グループのネットワークづくりを通して、避難者支援を行うことを目的に活動している団体です。都内のさまざまな団体が賛同し、一緒に取組を行っています。

### <連絡会in東京の参加団体>

荒川区社会福祉協議会／いたばし総合ボランティアセンター／難民を助ける会 [AAR Japan]／NPO法人こどもプロジェクト／金光教首都圏災害ボランティア支援機構／災害復興まちづくり支援機構／全労済（全国労働者共済生活協同組合連合会）／中央労働金庫／東京足湯プロジェクト／東京災害ボランティアネットワーク／東京都生活協同組合連合会／東京ボランティア・市民活動センター／東京労働者福祉協議会／連合東京

### ●お問合せ先

広域避難者支援連絡会in東京（事務局）東京ボランティア・市民活動センター  
☎ 03-3235-1171（広域避難担当） ✉ kouikihinan@tvac.or.jp

# ふるさとからのお知らせ

## 今月は岩手県からお知らせします。

### 内陸避難者向け「災害公営住宅」を303戸整備

岩手県では、東日本大震災津波により沿岸被災地から内陸部に避難した世帯向けに整備する災害公営住宅を、県内内陸部に303戸建設する予定です。

そのうち、県が整備する災害公営住宅は、盛岡市168戸、北上市34戸、奥州市14戸、一関市35戸の計251戸。

市が整備する災害公営住宅は、花巻市30戸、遠野市22戸の計52戸。

県では、平成28年1月から内陸部に避難している被災者の入居希望調査を実施。入居希望者の入居要件の確認を行い、内陸部全ての建設場所を確定させた上で、整備戸数を決定しました。

平成31年12月に全ての内陸避難者向け「災害公営住宅」が完成することを目指して、現在整備を進めています。

#### 【県整備】

団地名	建設場所	建設戸数	完成予定
備後第1アパート	盛岡市月が丘2丁目地内	24戸	平成29年度末
		26戸	平成30年度末
(仮称)南青山アパート	盛岡市青山一丁目及び南青山町地内	118戸	平成31年12月
(仮称)黒沢尻アパート	北上市黒沢尻4丁目地内	34戸	平成31年12月
(仮称)桜屋敷アパート	奥州市水沢区字桜屋敷地内	14戸	平成31年9月
駒下アパート	一関市萩荘字駒下地内	22戸	平成30年度末
(仮称)構井田アパート	一関市千厩町字構井田地内	13戸	平成31年9月



工事が進む「県営備後第1アパート」(盛岡市)



「穀町市営住宅」(遠野市)の建設予定地

## 【市整備】

団地名	建設場所	建設戸数	完成予定
(仮称)花巻上町アパート	花巻市上町及び仲町地内	30戸	平成30年度末
穀町市営住宅	遠野市穀町地内	16戸	平成29年度末
稲荷下市営住宅	遠野市遠野町地内	6戸	平成30年度末

## 防災集団移転促進事業 住宅団地整備工事が完了

大船渡市が東日本大震災津波により被災した住宅を再建するため整備を進めてきた防災集団移転促進事業・住宅団地整備の工事が、9月5日(火)に全て完了しました。

同事業では、市内21地区の高台に宅地366戸を整備する計画で、平成25年3月から工事を実施。このうち同市赤崎町の中赤崎地区に着工していた森っこ34戸、洞川原3戸の計37戸の宅地造成工事が完了し、10月から住民への土地の引き渡しが始まりました。

同事業は、整備面積約27万5,000平方メートルに宅地、道路、公園、集会施設等を整備し、被災前のコミュニティーを移転後も継続できるように計画を進めてきたものです。

同市では、平成28年9月に全25団地計801戸の災害公営住宅の整備が完了しており、今回、住宅団地整備工事が完了したことから、住まいの再生に向け大きな節目を迎えることになりました。



宅地造成工事が完了した「森っこ・洞川原」の宅地造成地（写真提供：大船渡市）

### ●お問合せ先

岩手県復興局生活再建課 ☎ 019-629-6926

# ふるさと復興の今がわかるツアー

【宮城県北部コース】の実施状況についてお伝えします！

平成29年10月24日(火)から25日(水)に、ふるさと復興の今がわかるツアー【宮城県北部コース】を実施し、10名の方にご参加いただきました。

気仙沼市内、南三陸町内を視察し、県や自治体職員からの説明・意見交換などを行い、ふるさとの復興を感じていただきました。また、南三陸町宮志津川東復興住宅で交流会を行い、地元の方と参加者の方で親交を深めていただきました。参加者の方からは、ゆっくりと復興の様子を見ることができ、細部に渡って説明を聞くことができよかったなどの声が寄せられました。



安波山（気仙沼市）



鹿折南住宅（気仙沼市）



気仙沼市立新病院（気仙沼市）



入谷Yes工房（南三陸町）



南三陸町地方卸売市場（南三陸町）



交流会（南三陸町宮志津川東復興住宅）

## ●お問合せ先

東京都総務局復興支援対策部都内避難者支援課 ☎ 03-5388-2384

# 現地の応援団より

東北で働く応援団をご紹介します。

今月は福島県に派遣されている東京都職員からです。

私が所属する福島県保健福祉部地域医療課では、避難地域の医療機関の再開・開設支援や地域に不足する医療の提供に向けた取組を行っています。

今年度の動きとしては、昨年7月に双葉郡南部で透析患者の方の通院送迎サービスが始まり、11月には葛尾村で内科診療が再開しました。また、双葉郡内で訪問看護ステーションの開設準備が始まるなど、着実に医療機関の再開や医療環境の整備が進んでいます。

医療以外でも、小売店や飲食店の再開に加え、JR常磐線が富岡駅まで開通したり、帰還困難区域の復興・再生を集中的に進めるための「特定復興再生拠点区域」の認定が始まったりと、各方面で復興を後押しする動きが進んでいます。

先日葛尾村を訪れた際に、昨夏に村での営業を再開した「石井食堂」に立ち寄ったのですが、名物のチャーハンを求めるたくさんのお客さんで賑わっており、地域の活気が少しずつ戻っているのを肌で感じる事ができました。

このような福島状況を避難者の皆様にもお知らせするために、福島県では毎月「ふくしまの今が分かる新聞」を発行し、復興に向けた動きや避難者の方への支援状況等をお伝えしています。福島県のホームページでも公開していますので、ぜひご覧ください。

私も、医療の面から福島復興のお役に立てるよう、引き続き努めていきたいと思えます。



「葛尾村診療所」平成29年11月9日開設



石井食堂（葛尾村）

東京都（福島県保健福祉部地域医療課派遣）職員 杉山 光佑